



## 絢爛豪華な時代絵巻「照姫まつり」が開催

～室町時代から伝わる伝説のヒロインに12万8千人が酔いしれる～

と き 4月27日(日)午前10時～午後3時30分

と ころ 都立石神井公園(練馬区石神井台1丁目)とその周辺

27日、都立石神井公園とその周辺で「第27回照姫まつり」が開催された。晴天にも恵まれ、会場は家族連れなど約12万8千人の人数でにぎわった。

「照姫まつり」は、室町時代中期に石神井城を居城としていた豊島泰経(としまやすつね)の娘・照姫にちなんだまつりで、練馬の春の祭典として定着している。

最大の見どころである「時代行列」では、絢爛豪華な衣装を身にまとった照姫、泰経公、奥方を中心に、勇ましい鎧姿の武士にふんした総勢約100人が都立石神井公園内の野外ステージを出発し、公園周辺の約2.5kmをおよそ4時間かけて練り歩いた。

また、会場では伝統芸能や区内で活動する団体のダンス・音楽演奏なども披露され、石神井公園周辺はお祭りムードに包まれた。



にこやかに手を振る照姫



野外ステージの様子

**【照姫まつりとは】**主催：照姫まつり推進協議会(照姫まつり実行委員会、練馬区観光協会、練馬区)

照姫は、室町時代中期に石神井城を本拠地とし、栄華を極めていた豊島泰経公の娘として語り継がれている。戦乱の当時、泰経公は宿敵太田道灌(おおた どうかん)に攻め滅ぼされると、愛馬にまたがり、現在の石神井公園にある三宝寺池に身を投じた。愛娘の照姫は、泰経公の最期をみると、悲しみのあまり自らも池に身を投げ、命を絶ったと言われている。

照姫まつりは、悲劇のヒロインである照姫を偲び、毎年春に行われる時代まつり。命を大切にし、家族・友人・生まれ育った地域を愛し、感謝することをテーマに開催されている。

**【照姫に、観衆から盛んな拍手と声援が】**

正午ごろ、照姫、泰経公、奥方の三役をはじめ、姫や武者等が公園内の野外ステージに登場。豊島氏の繁栄から滅亡の様子を描いた舞『石神井城物語』が披露されると会場は大きな拍手で包まれた。

そして、午後0時55分に、泰経公の「エイ、エイ」の掛け声が続いて、家臣たちの「オ-！」という勇ましい闘(とき)の声で、総勢約100人の行列が野外ステージを出発。三役を輿(こし)に乗せ、名物の時代行列がスタートした。

三宝寺池に眠るとされる龍神を先頭に、武者や姫など総勢約100人で構成される行列の長さは、およそ100メートル。沿道には大勢の観客が待ち構え、照姫たちが近づくと大きな歓声や拍手を送り、三役は、手を振りながら、にこやかな笑顔で応えていた。また、途中、武者たちが刀を振り上げて威勢の良い掛け声をあげるなどの演出もあり、大いに盛り上がった。

**【ツツジでつながる縁、他自治体もまつりに参加】**

4月にオープンした『石神井松の風文化公園』に友好のツツジを寄贈・植樹した福岡県久留米市、群馬県館林市、福島県塙町もまつりに参加。会場内で物販等を行い、それぞれのまちの特産品を来場者にPRした。

まつりの定番の焼きそばや串焼き等のテントも軒を並べて自慢の味を購入客に提供したほか、ステージでは子供達の元気なパフォーマンスなどが披露され、初夏を思わせる陽気の中、来場者は様々な楽しみ方でまつりを満喫していた。

**【問い合わせ】**区民生活事業本部 産業経済部 商工観光課 まつり係 電話03-5984-2389